

PRIMERGY RX200 S8 / RX300 S8 / TX300 S8 / RX350 S8**ご使用上の留意・注意事項**

PRIMERGY RX200 S8 / RX300 S8 / TX300 S8 / RX350 S8 に関して、以下の留意・注意事項がございます。
製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

2020 年 2 月
富士通株式会社

【PRIMERGY RX200 S8 / RX300 S8 / TX300 S8 / RX350 S8 共通】**1. UEFI モードについて**

UEFI モードの設定方法や OS 及びオプションのサポート状況に関しては、下記リンクをご参照ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/products/note/>

2. Intel TXT 機能について

本装置では Intel TXT 機能(*1)はご使用になれません。

(*1): Intel TXT 機能(インテル®トラステッド・エクゼキューション・テクノロジー)

3. 主電源の給電から Stand by モードになるまでの時間について

サーバに主電源が供給されてから、Stand by モード(電源投入可能状態)になるまで、約 1 分間かかります。

4. メモリのミラードチャンネルモードについて

ミラードチャンネルモードは 1DPC 構成のみサポートになります。

※DPC: チャンネルあたりの DIMM 数

5. SAS アレイコントローラカードを使用した iRMC S4 Web インターフェースにおける RAID 監視機能について

SAS アレイコントローラカード(PY*SR3C34)を使用した、iRMC S4 Web インターフェースでの RAID 監視機能は、下記の iRMC ファームウェア版数でご利用いただけます。

・iRMC ファームウェア版数 : 7.16F 以降

6. HDD のオンボード接続について

本装置では、HDD のオンボード Native 接続(RAID 非構成)はご使用になれません。オンボードに HDD を接続する場合は、必ず RAID を構成する必要があります。

7. iSCSI boot について

本装置では、構成により iSCSI boot をご使用になれない場合があります。

iSCSI boot の対応状況については、下記リンクに公開の「システム構成図 ETERNUS 編」をご参照ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/system/>

8. VMware 対応について

VMware のサポート状況については下記 URL を参照してください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/software/vmware/support/>

9. iRMC S4 Web インターフェースによる iRMC 設定の保存について

iRMC S4 Web インターフェースで保存した iRMC 設定情報を、ServerViewAgent の SystemConfigurationUtility で復元することはできません。Web インターフェースで保存した設定情報の復元は Web インターフェースから行ってください。

10. iRMC S4 Web インターフェースへのログインについて

Internet Explorer 7 をご使用の場合、ログイン ID/パスワードを入力した際、まれにログインできない場合があります。その場合は再度ログイン ID/パスワードを入力してください。

11. チャンネル上に複数のメモリを搭載した場合について

1 チャンネル上に複数のメモリを搭載し、そのいずれかのメモリについて、BIOS 設定の[Advanced] - [Memory Status]メニュー上のステータスを”Disabled”に設定した場合、次回電源投入時にシステムが起動しなくなる場合があります。”Enabled”設定としてご使用ください。

12. ServerView Raid Manager 上の意図しないログについて

※本留意事項は下記の版数以降の ServerView RAID Manager をご利用のお客様には該当致しません。

ServerView RAID Manager V5.7.3 以降

内蔵ストレージ が HotSpare ディスクとして構成されていない場合でも、Raid Manager 上に以下のメッセージが記録される場合があります。動作上における支障はございませんので、そのままご使用ください。

"Change state from DISK xx from hotspare to operational "

13. Red Hat Enterprise Linux 6.4 (for Intel64)ご使用時のオンボード VGA の制限について

オンボード VGA およびネイティブドライバを使用している RHEL 6.4(for Intel64)で解像度を 800x600 (24bit)へ設定すると、iRMC のビデオ表示が正常に機能しません。他の解像度に設定してご使用ください。

14. ビデオリダイレクション(AVR)機能ご使用時の制限について

AVR 機能のホットキーメニューの登録可能数は最大 15 項目です。

ホットキーメニューに関連した情報は、下記リンクに公開の「iRMC S4 - Integrated Remote Management Controller」マニュアルにも記載されています。ご使用にあたりましては本書に記載の情報もご参照ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/products/note/svsdvd/additional-info.html>

15. ビデオリダイレクション(Advanced Video Redirection)ご使用時のキーボード入力について

iRMC FW 7.38F をご使用の場合、iRMC S4 Web インターフェースのビデオリダイレクション(AVR)のご使用時に、キーボード入力ができない場合があります。AVR ウィンドウ内にあるメニューバーの「キーボード」メニュー - 「ソフトウェアキーボード」より、ご使用になる言語のソフトキーボード(仮想キーボード)を選択してご使用ください。

※RX200S8/RX300S8 については、iRMC FW7.41F 以降でこの問題が修正されています。

※TX300S8/RX350S8 については、iRMC FW7.68F 以降でこの問題が修正されています。

16. 主電源切断時のログについて

電源が非冗長構成時、主電源が切断されるごとにシステムイベントログに以下のメッセージが記録されます。動作上における支障はございませんので、そのままご使用ください。

“CRITICAL:Power unit primary power lost”

17. Windows イベントログ(イベント ID: 56)について

コンバインド・ネットワーク・アダプタ(PY*CN202/ PY*CN202L)搭載時において、下記のイベントが OS のイベントログに記録されることがありますが、動作上における支障はございませんので、そのままご使用ください。

ソース: Application Popup イベント ID: 56 レベル: エラー キーワード: クラシック “ドライバー SCSI は、子デバイス (xxxxxx) に無効な ID を返しました。”
--

Dual port LAN カード (10GBASE) (PY*LA242/ PY*LA242)搭載時において、下記のイベントが OS のイベントログに記録されることがありますが、動作上における支障はございませんので、そのままご使用ください。

ソース: Application Popup イベント ID: 56 レベル: エラー キーワード: クラシック “ドライバー PCI は、子デバイス (xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx) に無効な ID を返しました。”

18. ServerView Installation Manager(以下、SVIM)による OS インストールについて

Quad port LAN カード (PY*LA234/ PY*LA234L/ PYBLA234U)を搭載し、SVIM から下記対象 OS のインストールを行った際、まれに OS インストールが正常終了しない場合があります。

[対象 OS]

- Windows Server® 2008 R2

上記対象 OS をインストールする際は、Quad port LAN カードを取り外した後に、OS のインストールを行ってください。

OS インストールの正常終了後、Quad port LAN カードを元の位置に再度搭載してから、Quad port LAN カードドライバを適用してください。

19. ネットワークカード / システムボード交換に伴う設定情報の再設定について

Windows Server 2008, Windows Server 2008 R2 を御使用の場合、ネットワークカード、またはシステムボードの交換、待機系装置への切替え、他装置へのリストア等を行うと、ネットワークコントローラを新規追加部品と装置が認識するため、ネットワーク関連の設定情報(IP アドレス / Teaming 設定など)が初期化され、再設定が必要となります。

マイクロソフト社の以下の KB(Knowledge Base)を参照の上、事前に Hotfix を適用することで再設定を回避可能ですので、適用をお願い致します。

Windows Server 2008(SP2) : KB2710558 (Hotfix 適用後、レジストリ変更が必要)

Windows Server 2008 R2: KB2344941 , KB976042 (SP1 適用時は、再度 Hotfix 適用が必要)

Windows Server 2008 R2(SP1): KB2550978 , KB976042

※ Hotfix 適用にあたっての注意事項

・Hotfix はマイクロソフト社のサポートページから入手してください。

2014 年 8 月時点では、以下の URL から検索可能です。

<http://support.microsoft.com/?ln=en-us>

・Hotfix は、OS インストール時に搭載されていた部品情報を有効にするものです。

OS インストール後にシステムボード等を交換していた場合、OS インストール作業時の情報となります。

・Windows 2008 (SP 無)、Windows 2008 +SP1 用の Hotfix は公開されていません。

SP2 適用後に Hotfix を適用願います。

また、既にネットワーク関連の設定情報が初期化された場合も、Hotfix 適用により回復できる場合がありますので、この場合も適用をお願いします。

なお、Hotfix 適用によって回復しない場合は、ネットワーク関連情報の再設定が必要となります。この際、ハード変更前の LAN コントローラの情報が残っているため、変更前に使用していたネットワーク接続名を設定することができません。以前使用していたネットワーク接続名を使用する必要がある場合は、以下の作業後にネットワーク関連情報を再設定してください。

(1) デバイスマネージャを起動します。

コマンドプロンプトを開き、以下を実行してください。

```
set devmgr_show_nonpresent_devices=1
```

```
start devmgmt.msc
```

(2) 非表示デバイスを表示可能にします。

デバイス マネージャーで [表示] メニューの [非表示のデバイスの表示] をクリックしてください。

(3) コンピューターに接続されていない LAN コントローラを削除します。

色が薄く表示されている「ネットワークアダプタ」を削除してください。

20. グラフィックスカード(PY*VG201L)搭載時の制限について

グラフィックスカード(PY*VG201L)は、下記の BIOS 版数で対応となります。

BIOS 版数

RX200 S8 / RX300 S8 / TX300 S8 / RX350 S8 : 1.1.0 以降

21. ServerView Suite Installation Manager での Windows Server 2012 R2 のインストールについて

ServerView Suite DVD 11.13.10 の、ServerView Suite Installation Manager では、オンボード RAID 環境へのインストールは出来ません。詳細は下記 URL の「Windows Server 2012 R2 動作確認情報」をご確認ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/software/windows/support/2012-r2/>

22. Shared LAN Port(LAN1)での PXE boot 使用時の注意事項

Shared LAN (LAN 1)と LAN スイッチ(L2 スイッチ)を接続し、Shared LAN port で PXE boot させたい場合、LAN スイッチの接続ポート(ダウンリンクポート)の STP(スパニングツリープロトコル)を無効設定(*1)でご使用ください。

この設定が有効な状態で、サーバを管理端末などから PXE boot させようとした場合、DHCP サーバとリンクが正常に行えないため、サーバは PXE boot できません。

(*1)STP 無効状態

STP(スパニングツリープロトコル)は、LAN 接続が冗長構成になっている LAN スイッチのネットワーク環境において、ネットワーク内にループ状態が発生しブロードキャストストームなどの致命的な問題を回避するためのプロトコルです。

LAN スイッチ間を接続するアップリンクポートは、STP 設定を有効にする必要がありますが、末端に接続されるサーバの接続される LAN スイッチのダウンリンクポートは、STP を無効設定することが標準的な使用方法であり、問題は発生いたしません。

23. リモートマネジメントコントローラアップグレード(PY-RMC41)使用時の注意事項

iRMC FW 7.2xF 以前の版数をご使用の場合、2014 年 7 月 1 日以降、一般オプションにてご購入いただいた iRMC アップグレードアクティベーションキーがご使用になれません。

(2014 年 6 月 30 日までにアクティベーションを実施した場合、問題なくご使用頂けます)

アップグレードアクティベーションキーの適用前に、iRMC FW を 7.38F 以降の版数にアップデートしてください。

24. 電源 LED の表示について

iRMC FW の版数によって、電源 LED の表示が異なります。

iRMC 7.22F 以前

緑色の点灯	サーバの電源が入り、動作している
オレンジ色の点灯	スタンバイモード
黄色の点灯	パワーオンディレイ中。

iRMC 7.38F 以降

緑色の点灯	サーバの電源が入り、動作している
オレンジ色の点灯	スタンバイモード
黄色の点灯	パワーオンディレイ中。
オレンジ色/黄色の ゆっくりとした点滅	iRMC S4 の起動中。

25. CPU Internal Error における対処について

CPU Internal Error (CPU IERR) が発生すると、下記の事象が発生します。

- 1) システム運用中、予期せぬシャットダウンが発生しシステムが再起動される。
 - 2) システムシャットダウン時、電源切断されずシステムが再起動される。
- システムイベントログ(*1)にて、CPU IERR が発生しているかどうかを確認してください。

CPU IERR が発生している場合は、以下の対処を実施してください。

1. BIOS/iRMC ファームウェアの更新情報(*2)がないかご確認ください。
稼働中のシステムより新しい修正モジュールがある場合は適用してください。
2. PCI カード(SAS アレイコントローラカード、SAS カード、SCSI カード、LAN カード等)の
ドライバ/ファームウェアの更新情報(*2)をご確認ください。
稼働中のシステムより新しい修正モジュールがある場合は適用してください。
3. 上記実施後も再度事象が発生する場合は、修理相談窓口までご連絡ください。

CPU IERR が発生しても故障ランプは点灯しません。また、本製品に添付されている ServerView のバージョンではポップアップによる画面通知は行われません。

CPU IERR をポップアップ通知するには、ServerView を更新する必要があります。ServerView の更新版は、以下の当社ホームページより入手できます。

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/downloads/>

*1 システムイベントログの例

'CPU1': CPU internal error (IERR)

注) CPU 番号は異常が発生している CPU により異なります。

*2 最新のファームウェア/ドライバにつきましては、以下の当社ホームページより入手できます。

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/downloads/>

【PRIMERGY RX200 S8】

1. SAS アレイコントローラカード(PY*SR3C34)のデータ転送速度について

SAS アレイコントローラカード(PY*SR3C34)のデータ転送速度は PCI Express 2.0 に制限されます。

2. I2C ケーブルを用いた HDD 監視オプションをご購入いただいたお客様へ

HDD 監視オプションに関連した情報は、下記リンクに公開の「iRMC S4 - Integrated Remote Management Controller」マニュアルにも記載されています。ご使用にあたりましては本書に記載の情報もご参照ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/products/note/svsvdvd/additional-info.html>

3. ラックへの装置格納について

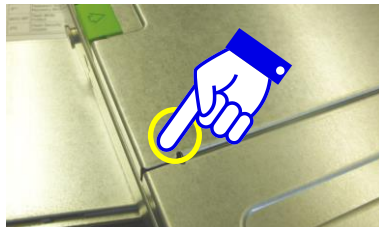
以下の作業に際し、装置にねじれ方向の力が加わることによってファンカバーが浮き上がり、ラック内の他ユニットの接触により、装置がラックから引き出し難くなる場合があります。

- 装置をラックに設置する。
- 装置をラックから引き出した状態で作業を実施する。

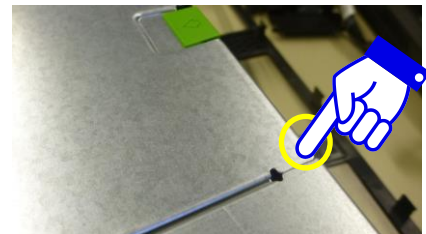
これらの作業後、ラックに装置を格納する際は、下記に示すファンカバー左前・右前の2箇所が浮き上がっていないことを確認し、浮き上がっている場合は指で押して、浮き上がりが無い事を確認の上、装置をラックに格納してください。



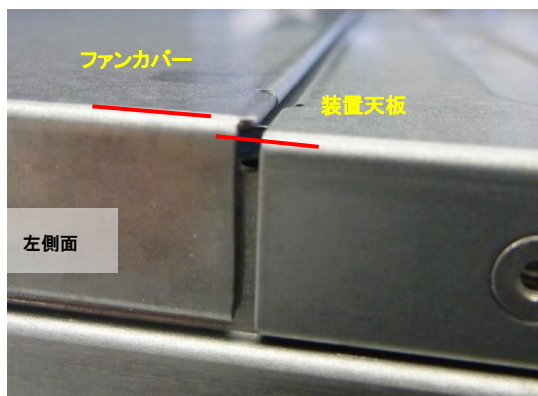
確認箇所



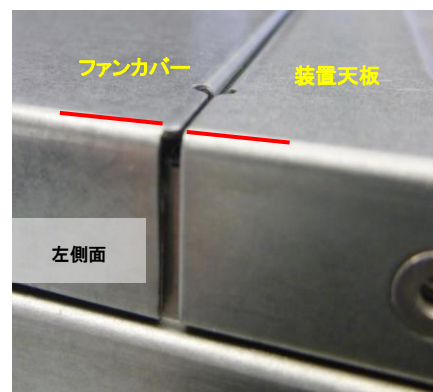
押下箇所詳細(左側)



押下箇所詳細(右側)



浮き上がっている状態(段差あり)



適正な状態(段差なし)

4. メモリのミラードチャンネルモードについて

本装置では以下の BIOS 版数をご使用の場合、メモリミラードチャンネルモードはご使用になれません。

BIOS 版数 : 1.7.0、1.8.0

上記 BIOS 版数をご使用の場合、BIOS 設定の[Advanced]メニュー - [Memory Configuration] - [Memory Mode]で”Mirroring”設定はご使用になれません。

5. CPU の省電力モード設定について

BIOS 設定でエネルギー効率を重視する設定にした場合(*1)に CPU が省電力モードから急激に電力を消費する様な動きになると予期せぬ稼働停止(*2)を招く場合があります。

*1: BIOS 設定内の Advanced メニュー - CPU Configuration から Power Technology の設定を Custom にした状態で、Package C-State limit を”No Limit”に設定した場合。

*2: A voltage regulator device (VRD) has a fatal error もしくは CPU Internal Error (対処方法) Package C-State limit を C0 または C1 に設定してください。ご使用の OS が Linux の場合は grub.conf 設定をあわせて行ってください。C0-State の固定にする場合は kernel 行に intel_idle.max_cstate=0、processor.max_cstate=0 を追加します。

(本設定による影響)アイドル時の消費電力が若干上昇しますが、性能には影響ありません。

【PRIMERGY RX300 S8 / TX300 S8 / RX350 S8 共通】

1. BIOS Recovery Flash 時の意図しないエラーログについて

※本留意事項は下記の BIOS 版数をご利用のお客様には該当致しません。

BIOS 版数

RX300 S8 / TX300 S8 / RX350 S8 : 1.1.0 以降

BIOS Recovery Flash.時にシステムイベントログに”BIOS POST Watchdog-Action: Hard Reset(Post Code: 0x60)”のログが記録されますが、動作上における支障はございませんので、そのままご使用ください。

2. ServerView Update Manager を使用した BIOS アップデートについて

本装置では VMWare ESX 環境において、ServerView Update Manager を使用した BIOS アップデートはご使用になれません。

3. プロダクトシリアルナンバーの誤表記について

BIOS1.3.0 以前でご使用されている場合、システムの起動時の画面でプロダクトシリアルナンバーが誤って”???”と表示されてしまう問題があります。

正しく表示させるためには、BIOS1.6.0 以降にアップデートしてください。

4. LTO 装置の搭載について

LTO 装置(PY*LT301/PY*LT411/PY*LT511/PY*LT611)をご使用の際は、

BIOS 設定の [Advanced] メニューより、[Onboard Devices Configuration] サブメニューの各項目を以下の様に設定してください。

Onboard SAS/SATA (SCU) : Enabled
SAS/SATA OpROM : Enabled
SAS/SATA Driver : Intel RSTe

5. ファイバーチャネルカード(8Gbps)(PY*FC211(L))、Dual Port ファイバーチャネルカード(8Gbps)(PY*FC212(L))をご使用時の留意事項

ファームウェア版数が 3.29 よりも古い版数が適用されたファイバーチャネルカード(8Gbps) (PY*FC211(L))、または Dual Port ファイバーチャネルカード(8Gbps) (PY*FC212(L))を搭載し、サーバ本体の BIOS 版数が 1.17.0 より新しい版数が適用された場合、システム起動時に保守ランプが点滅し、システムイベントログ(SEL)に下記の重度(Major)のエラーログが記録されます。本メッセージに伴う、サーバ本体及びファイバーチャネルカードの動作に問題はありません。

本エラーログの発生を回避するには、ファイバーチャネルカードのファームウェア版数を 3.29 以降へアップデートしてください。最新版は下記ダウンロードページを確認してください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/downloads/>

[記録されるエラーログ]

```
CLP command to device in PCI slot [PCI スロット#] failed. Command not supported
CLP command to device [デバイス名][デバイス ID] failed. Command not supported
```

※ ログは POST (Power-On Self-Test: 電源投入時自己診断) 中に複数記録されます。

【PRIMERGY RX300 S8】

1. PCIe SSD (PY*SD07PA / PY*SD12PA / PY*SD0APA2 / PY*SD07PA2 / PY*SD12PA2) をご使用時の留意事項①

PCIe SSD を 2 枚搭載してご使用の場合、OS 起動ごとに下記イベントが OS イベントログに記録されることがありますが、動作上における支障はございませんので、そのままご使用ください。

```
ソース: Application Popup
イベント ID: 56
レベル: エラー
キーワード: クラシック
“ドライバー PCI は、子デバイス (xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx) に無効な ID を返しました。”
```

2. PCIe SSD (PY*SD07PA /PY*SD12PA/ PY*SD0APA2/ PY*SD07PA2/ PY*SD12PA2) をご使用時の留意事項②

PCIe SSD 管理ソフト”ioSphere 3.3.4”がインストールされている場合、下記イベントがシステムイベントログに記録されることがありますが、動作上における支障はございませんので、そのままご使用ください。

ソース: fio-agent
イベント ID: 1
レベル: 警告
キーワード: クラシック

ソース: fio-msrv
イベント ID: 1
レベル: 警告
キーワード: クラシック

3. 光ディスクドライブ(ODD)インストールキットについて

以下の部品は、光ディスクドライブ(ODD)を搭載する際に必要な部品(ODD ホルダー)となっております。大切に保管頂きますようお願いいたします。



ODD ホルダー

4. SAS アレイカード(PY*SR2L2)をご使用時の留意事項

SAS アレイカードの WebBIOS から、論理ドライブを二つ以上作成し、構成を保存した場合。または、複数の論理ドライブが存在している状態で SAS アレイカードの WebBIOS を起動した場合、本体 BIOS の起動ドライブのブート順が変更される場合があります。

SAS アレイカードの WebBIOS を起動した際には、本体 BIOS のブート順を確認、必要に応じて再設定してください。

5. LCD パネル(PY*FOD03)をご使用時の留意事項

iRMC ファームウェア版数 8.13F から iRMC ファームウェア版数 8.24 もしくは iRMC ファームウェア版数 8.43F に アップデートした場合、以下の事象が発生します。

- ・古いイベントメッセージや情報が表示されます。
- ・ブートサイクル中のシステムエラー・ログに、ブート・コードが表示されません。
- ・SEL 設定のフィルタが iRMC のウェブインターフェイスで表示されません。
- ・ServerView などの設定ツールでローカルサービスディスプレイの設定が出来ません。

※ 本制限は iRMC ファームウェア版数 8.64F 以降で解除済みです。
なお、オプション LCD を搭載していない場合は該当しません。

6. アップグレード&メンテナスマニュアルの誤記について

PRIMERGY RX300 S8 サーバアップグレード&メンテナスマニュアル 17.4 オンボード設定 (P.526)の記載に誤りがございました。

<正>RCVR:リカバリ BIOS が有効

<誤>RCVR:リカバリ BIOS が無効

【PRIMERGY TX300 S8 / RX350 S8 共通】

1. GPU コンピューティングカード(K20,K20X)/インテル Xeon Phi 5110P コプロセッサカードの搭載について

本カード搭載時はカード本体を冷却するため、一部ファンが常時高速回転で固定となります。そのため稼働時の騒音値が通常より高くなりますので、専用室に設置することを推奨します。

2. 電源ユニット(PY-PU452/PY-PU804/PY-PU805)増設時の留意事項

本体ご購入時の電源ユニットが 1 台の場合、ご購入時設定は [PSU 冗長モード] (*1) が [冗長なし] に設定されます。電源ユニット(PY-PU452/PY-PU804/PY-PU805)を増設し、冗長構成での運用される場合、iRMC Web ユーザーインターフェースより、設定変更が必要です。

[PSU 冗長モード] 設定については、『iRMC S4 - integrated Remote Management Controller ユーザガイドの「電源装置個別情報 - 電源ユニットの状態確認」』（Fujitsu マニュアルサーバ上 (<http://manuals.ts.fujitsu.com/index.php?l=ja>) の [x86 Servers] - [Software] - [ServerView Suite] - [Out-Of-Band Management])を参照してください。

なお、電源ユニットを 2 台以上の構成でご購入された場合のご購入時設定は、電源ユニット 1 台を予備電源とした冗長構成となります。

(*1) iRMC Web ユーザーインターフェース [センサ] - [電源装置個別情報] - [電源冗長構成] - [PSU 冗長モード]

—以上—